作成日：2018 年 10 月 18 日

出張報告

1.　訪問者：　片桐　・佐野・白土（M1/海洋大）
2.　訪問国・機関名： フィリピン・SEAFDEC/AQD
3.　相手国対応責任者： Evelyn Grace de Jesus AYSON 博士（SEAFDEC/AQD）
4.　訪問日程： 2018 年 10 月 14 日～17 日
5.　活動内容：

10 月 15 日、AQD を訪問し、Dan D. Baliao 局長、Leobert dela Pena 研究部長を訪問し、本年度の計画を説明するとともに、来年度の研究報告・計画検討会を AQD でラマダンが明ける 6 月下旬あるいは 7 月上旬に開催したい旨説明し協力を要請した（写真 1）。また、日本から派遣されている森 広一郎次長にも同様に協力の要請を行った。さらに、コーディネーターの Ayson 博士はじめ事業メンバー研究者、研究部長、Amar C. Edgar 研修部長などと研究について打合せを行った。特に、本年度に AQD から若手研究者 1 名を招聘し、研修を行い予定で、AQD から Demy Catedoral 研究員が候補者として挙げられた。12 月中旬での日本訪問を予定し、本事業で対象とするハタ類細菌感染症の生物制御の候補としてバクテリオファージの利用を検討することとし、バクテリオファージの分離や性状試験などの項目について東京海洋大学水族病理学研究室で研修を行うこととした。ハタ類等の種苗生産における問題点、魚病発生状況などを施設見学しながら論議した（写真 2）。さらに、協力機関であるフィリピン大学ビサヤス校を事業メンバーである Erlinda C. Lacierda 准教授の案内で訪問し、フィリピンの養殖の発展や魚病について説明を受けるとともに、学内の施設を見学した。また、Encarnacion Emilia S. Yap 水産科学部長を表敬訪問し、本事業の内容を説明するとともに、今後の協力について論議した（写真 3）。10 月 16 日は、Ayson 博士、森次長、Rolando V. Pakingking, Jr.博士らとともに、親魚の養成や種苗生産が可能な海面施設である Igang Marine Station を見学しながら、親魚養成の方法や問題点、感染症とその対策などについて論議した（写真 4-7）。さらに、汽水を利用できる Dumangas Blackishwater Station を見学した（写真 8, 9）。

写真 1　AQD 局長らと

写真 2　本所の飼育施設見学

写真 3　UPV　Yap 学部長らと

写真 4　Igang Marine Station

写真 5　場長と

写真 6　海面飼育施設

写真 7　養殖されるポンパノ

写真 8　Dumangas Blackishwater Station

写真 9　汽水飼育施設

6. 問題点、改善点、提案等:

来年度の報告会・計画検討会での宿泊場所、飛行場からの交通などについて、森次長の協力を得つつ、さらに具体的につめて行く必要がある。